

ベラルーシ公開情報取りまとめ
(9月24日～9月30日)

2019年10月3日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、ウクライナのマスメディアと会談(9/26)
- マケイ外務大臣、第74回国連総会に参加(9/27)
- ズベルバンク、ベラルーシの経済成長率を1.5～2.5%と予測。

大統領動静

(9/30 大統領公式ホームページ)

●ルカシェンコ大統領、ニコル・パシュニャン・アルメニア首相と会談(9/30)

ユーラシア経済連合ハイレベル協議の出席のためアルメニアを訪問しているルカシェンコ大統領は、ニコル・パシュニャン同国首相と会談。両者は、両国の貿易関係につき協議を行った。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・我々は、アルメニアのベラルーシに対する関係性について注視している。
- ・両国の貿易高は2018年時点で5000万ドルと大きくはないが、その成長率は年140%と高水準にある。今後も良好な経済関係が続くことを保証する。
- ・我々は、アルメニア企業のベラルーシにおける活動を支援する。もし、アルメニア企業に関心があれば、ベラルーシ企業との共同案件を創設しよう。
- ・仮にアルメニア企業が協業を断ったとしても、ベラルーシとアルメニアは友好な近隣国であり続ける。
- ・貴方(ニコル首相)は、私の良い友人である。アゼルバイジャン大統領も私の古くからの良い友人である。我々はアルメニアのために尽力する用意がある。

ニコル首相の発言要旨は以下の通り。

- ・複雑な問題を議論、従事できる二国間の能力を嬉しく思う。我々には、二国間の友情と同盟が発展するような形で問題を解決していくのに十分な賢さと勇気と意思がある。
- ・翌10月1日に開催されるユーラシア経済連合ハイレベル協議では、自由貿易に関する合意書と、ユーラシア経済連合とシンガポール間の包括的経済協力枠組に係る合意書が署名される。

●ルカシェンコ大統領、ベラルーシ化粧品会社ビテックス視察

ルカシェンコ大統領は、同社の化粧品製造工程を視察し、ビテックス社のビジネスはベラルーシで必要となる模範例である旨、と発言。

(9/27 大統領公式ホームページ)

●ルカシェンコ大統領、ウクライナマスメディアと会談(9/26)

ルカシェンコ大統領は、「ウクリンフォルム(通信社)」、「インターファックス・ウクライナ(通信社)」、「ウクライナ(テレビ局)」、「112ウクライナ(テレビ局)」、「1+1(テレビ局)」、「政府のクーリエ(新聞社)」の代表者と会談を行った。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・会談の本質について。
ウクライナメディアの代表者と直接話をするのは初めての機会であるが、ぜひ慣例化したい。我々は未来の世代のためにスラブの血縁関係を維持する義務がある。ウクライナは大事な隣国であり、経済貿易関係のパートナーである。我々は、ジトミールで開催予定のベラルーシ・ウクライナの地域フォーラムの直前にここで集まった。ベラルーシは強固な平和、安定に関心を持っている。ウクライナの平和のために、我々ができることは全て行ってきたし、今後も行っていく。
- ・国家間の関係について。
ベラルーシと米国関係が、我々(ベラルーシとウクライナ)の関心に影響を及ぼすとは否定もしないし、肯定もしない。米国は非常に大きい国であり、全ての関

係に影響を及ぼすが、米国の姿勢が我々の関係を決定するとは言えない。米国が独立国家であるのと同様に我々も独立国家である。東か西かという選択（当館注：ロシアや中国か、欧米かという選択）を前提とした場合、米国との会話は成り立たない。それぞれの国家との関係性は自らが決めていく。一方、ポルトン前大統領補佐官等、米国の政府高官は、会談前に、「ベラルーシに対しどちらかを選択するよう迫る訳ではなく、世界平和および東欧の安定のためにベラルーシを活用したい」と言ってきた。アメリカのこのような姿勢を歓迎する。ベラルーシが米国の制裁下にあった際、ロシアと米国の関係は良好であったが、そのことはベラルーシを緊張させるわけではなかった。我々はロシアに反抗する目的で米国と付き合っている訳ではない。国民投票で5分の4もの国民がロシアとの友好関係を支持している。実際、ベラルーシが困窮していた頃、ロシアと中国以外、どの国も支援してくれなかった。米国とは、媚びへつらうのではなく、対話をし、関係を正常化していきたい。中国との関係について質問されることが多いが、欧米がベラルーシに制裁を科した際に、扉を開けてくれたのは、中国であり、そこから協力が始まった。我々に翼をくれた同盟者を裏切ることはしない。ウクライナとロシア、ベラルーシとロシアの関係性には違いがある。ベラルーシは、炭化水素資源を始めとし、ロシアから生活必需品を受け取っている。ウクライナは多少なりとも資源を自給できる。歴史・経済的に見てもベラルーシとロシアの繋がりには密接であり、相互関係に関する国民投票を行った。

・ウクライナの紛争について。

隣国での紛争とは思っておらず、自分の家で起こっている問題と認識している。ベラルーシは、ウクライナからの難民を16万人受け入れている。欧州において、中東・北アフリカからの難民6千人を受け入れ切れていないことを知っている。ベラルーシは、16万人ものウクライナ難民を受け入れ、ベラルーシ人と同等の権利を与えている。それは、経済にとって大きな圧力であった。それでもベラルーシ社会は、ウクライナ難民を同胞として受け入れている。ベラルーシは、絶対的

に平和姿勢を取っている。西側には、本紛争調停に向けた自身の視点を提案した。マケイ外務大臣をトウスクEU議長のもとへ派遣し、「欧州が我々と同じ姿勢を取らないならば、少なくとも欧州側にウクライナ紛争によって利害を有する者がいると考える」と伝えたところ、トウスクEU議長は「おそらく、そうである」と答えた。ウクライナ自身も紛争を解決するような姿勢に見えなかった。私は、ウクライナが熱い状態にいるようにするための利害関係者の圧力であり、ウクライナを活用したロシアに対する圧力があると見做した。紛争を解決したいという希望だけでは足りない、行動が必要である。私は、停戦と、領土のウクライナへの返還のためにはあらゆる行動が必要であると考え。そのためには、ウクライナにおける一体性と統一が重要である。国民主義者であろうと、民族主義者であろうと、東よりの国民、西よりの国民であろうと、団結することが大切であり、これが大統領の課題である。

・主権と独立について。

ロシアとベラルーシの統合国家プロセスにおいて空虚で、かつ正しくない会話が散見される。我々は、独立した主権国家であり、これからもそうあり続ける。何があろうと我々の主権と独立性は強化していく。プーチン露大統領との会談で、私は彼に「もし、ベラルーシがロシアの一部となる、あるいはロシアと合体するという考えをお持ちであれば、捨てて頂きたい」と伝えたところ、彼は「そんな考えは持ち合わせていない」と答えた。ベラルーシは何世紀にも亘り、独立を夢見てきた。現在、我々は独立国家であり、主権と独立を持ち続ける必要がある。

・ベラルーシからの見かけの軍事的脅威について。

ベラルーシ軍がドンバスに行くのは、私が命令を下した時だけである。私がベラルーシ軍の総帥である。我々は議会と地方行政政府と軍事ドクトリンを作成しており、2020年以降新軍事ドクトリンを採用する。もし欲しければ貴方にも送付する。ウクライナにおける軍事行動への参加については、仮にベラルーシ軍が参加する場合は、私は大統領でなくなっている。第一にベラルーシはウクライナの敵になりえず、第二にロシアにとってベラルーシ軍は必要ないためである。

・クリミア半島の返還の可能性について。

クリミアがウクライナに返還されることはない。クリミアのロシア領化は既成事実化している。将来的に新しい世代がロシア政府を担い政策が変わる際にはあり得るかもしれない。仮に今、ロシアにおいて、ロシアのクリミア保有を批判する者が政権を取ろうと、クリミアがウクライナに戻ることはない。

・ベラルーシの平和的イニシアチブについて。

重要なのは、ウクライナにとって、そしてこの紛争に巻き込まれている方々にとって、ベラルーシのイニシアチブが必要なのか、ということである。

・ウクライナとベラルーシの貿易関係について。

ウクライナの貿易赤字は、ウクライナに欠かせない石油製品が関連している。我々は付加価値をつけ、石油を精製し、ウクライナへ販売している。原油価格に左右されており、我々はそれによって儲けてはいない。もし希望あれば、政府間委員会に動いてもらい、少しずつ対等な貿易関係にしていこう。我々は多くの分野で大きな関心を持っている。

・有望な共同案件について。

3年前にポロシェンコ前大統領にミサイル開発案件を提案した。我々はロシアではなく、中国とミサイルを共同開発をした。結局実現しなかったが、その他新兵器の共同開発の可能性もある。仮に兵器だと警戒を引き起こすのであれば、プリピャチとドニプルを結ぶ道路建設案件等の平和的案件も数多くある。

・電話会談の記録について。

私は、プーチン露大統領やゼレンスキー・ウクライナ大統領との会談を記録したりしない。我々にそのようなプラクティスは無い。トランプ米大統領とゼレンスキー・ウクライナ大統領の電話会談の内容については、何とも思わない。トランプ大統領は、ゼレンスキー大統領に米国民に関する事件の整理を依頼したに過ぎない。もし私がゼレンスキー大統領であれば、感謝し、すぐに調査を開始したであろう。

・ゼレンスキー大統領との会談について。

議題について、優先度をつけて列挙することはないが、まずは経済と共同案件について議論するであろう。ミサイル製造は非常に重要な案件である。我々に

は能力が欠けており、経験のある人材が少ないが、あなた方にはある。そして、炭化水素資源について、議論せずにはいられないであろう。公の場では、詳細は議論されないであろう。

・ロシア語とベラルーシ語について。

ベラルーシでは、両言語とも平等なステータスを得ている。オーストリア人がドイツ語を話すからといってオーストリアがドイツの一部になるわけではないのと同様である。我々（ベラルーシ人）はロシア語を主として話している一方、ほぼ全ての国民がベラルーシ語を知っている。国民投票において、ロシア語とベラルーシ語どちらにすべきか、ではなく、ベラルーシ語をロシア語と同じステータスにするか、というテーマであった。国民の多くは、両言語の平等なステータスに賛成した。

・ベラルーシにおける体系的でない候補（当館注：政治家出身ではない大統領候補）の勝利について。

ベラルーシでは起きえない。私は39歳で大統領に選出された。当時は何もなかったからだ。大統領選出の年に大統領権限強化に関する国民投票を行い、全ての責任を取ることにした。独裁者や独裁主義が良いと思わないで頂きたい。（独裁は）全ての責任を取る必要がある。全ての失敗を背負う必要がある。ベラルーシの人々はそれ（独裁）に慣れており、目をつむって誰か第三者を選任するという事態はありえない。

・ベラルーシの未来の大統領について。

私は特段見つけていない。健康である限り、従事し続ける。健康と人々の信頼が大切である。前回の大統領選挙を辞退しなかった理由は、新しい人間が全てを壊していくのを見たくなかったからである。私は永遠ではなく、死ぬまで大統領でいるつもりはない。いつか皆と同様に落ちて暮らしたい。私の子供が大統領職を継ぐことはない。私の長男、次男、三男は、私の大統領職で既に飽きており、また大統領職は国民により選出される必要がある。

・中国との関係性について。

習近平国家主席との関係は非常に良好である。我々の関係は、彼がまだ国家主席になる前から始まっている。中国が我々の主権を脅かしているとは一切思

わない。逆に言えば、あなた方はアメリカがあなた方の主権を脅かしていると思うか？あなた方アメリカへの依存度合いは、ベラルーシの中国への依存度より高い。中国がベラルーシ市場へ拡張している、と言うが、EU がバルト諸国に資金提供してきたのも、バルト三国の市場に拡張したと言える。

(9/26 大統領府公式サイト)

外交

●マケイ外務大臣、第 74 回国連総会に参加(9/27)

マケイ氏の発言要旨は以下の通り。

- ・国際関係を安定化し、国際対話を強化し、予測性を高めることのできる新しい交渉プロセスの形成に関するアイデアが喫緊となっている。
- ・国連の多くの分野のメカニズムは、先入観にとらわれたアプローチ、相互不満、過剰な野望の人質と化しており、機能不全に陥っている。
- ・新しい戦争の防止のためには、いかなる紛争も国際法に基づいた対話により解決される必要がある。
- ・来年の国連設立 75 周年の記念総会を、ありきたりな儀礼的な行事とさせないように注意したい。そして、現代の脅威の調停、対話と信頼の回復における国連の役割を高めるための解決方法の現実的な模索のために同総会を捧げるよう求める。
- ・気候変動に関して、先進国の発展途上国に対する先端知識・技術の伝達メカニズムは、低炭素経済への移行へ力強い刺激となりうる。
- ・ベラルーシは国際的、地域的な水準における信頼回復に貢献する用意がある。

(9/27 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、スブラマニウム・ジャイシャンカル印外務大臣と会談

両者は、査証簡素化に向けたより密接な相互の活動に関し合意した。モディ印首相のベラルーシ招待に関し確認した。

(9/26 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、エドガルス・リンケービッチ・ラトビア外務大臣と会談

両者は、二国間の対話がポジティブかつ密接に行われていること、及び政府高官の相互訪問に関して確認した。

(9/26 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、リナス・リンケビチュス・リトアニア外務大臣と会談

両者は、二国間が関心と懸念を示す事項に関する協議を行い、問題解決のためのオープンで誠実な対話の開始の必要性への理解について一致した。

(9/26 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ゴルダン・グルリッチ・ラドマン・クロアチア外務大臣と会談

両者は、パートナーシップの強化と欧州の安全のためにベラルーシとクロアチアが担う役割について協議を行った。マケイ外務大臣は、二国政府間の密接な交流にもかかわらず、二国間貿易経済協力の実現は不完全なものであることを強調し、2015年に合意された覚書にしたがい、政府間委員会の設立と協議会の実施を呼びかけた。

(9/26 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、エイモン・ギルモアEU人権問題特別代表と会談

両者は、今後もベラルーシ・EU間で、現在議題に含まれるセンシティブな問題に関連する協議を継続していくことで合意した。

(9/25 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、イブラヒム・アブドルアジーズ・アル・アッサーフ・サウジアラビア外務大臣と会談

両者は、農業、産業、情報技術分野をはじめとする多様な分野での二国間協力の拡大について議論した。

(9/25 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ヤツェク・チャプトービッチャ・ポーランド外務大臣と会談

両者は、ミンスクにおいて開催予定である東方パート

ナーシップのハイレベル会談等をはじめとする、国際行事に関する情報交換を行った。

(9/25 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、アスマ・モハメド・アブダラ・スーダン外務大臣と会談

アブダラ外務大臣は、マケイ大臣に対し、平和で安定したスーダン建設に向けたベラルーシの支援に関し感謝の意を述べた。両者は、スーダンにおける製肉・製乳企業設立、組み立て工場設立、資源開発案件等、両国の共同プロジェクトや二国間経済協力委員会の設立等の議論を行った。

(9/25 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ニコス・クリストドゥリドス・キプロス外務大臣と会談。

両者は、ベラルーシとキプロスの政治関連の相互協力や交流拡大に関する議論、中小企業振興に関わる知見交換を行った。

(9/25 ベラパン通信)

●リャシェンコ副首相、ベトナム訪問。

9月24日は同副首相率いるベラルーシ訪問団とハノイ人民委員会が会談。両者は、ミンスク自動車工場とハノイ交通会社の相互協力発展に関わる合意等、貿易経済協力に関する協議を行った。同副首相は、グエン・スアン・フック・ベトナム首相、ブオン・ディン・フエ副首相、ベトナム共産党代表と会談を行った。

(9/24 ベラパン通信)

内政

●ベラルーシ公務員8月度月給、7月対比3.1%減少

8月度同月給は812.4ルーブルであり、7月対比3.1%減少した。政府の事前評価によると、2020年の公務員向け給与予算割当ては14億ルーブルの増加を見込んでいる。

(9/25 ベラパン通信)

●ベラルーシ、2030年までに温室効果ガス排出量を1990年対比35%以上削減の意向

国連気候変動サミットにてベラルーシは「再生可能エネルギーのより積極的な活用、エネルギー効率に優れた建築、電気交通機関の発展、低炭素・脱炭素技術の経済への導入を通じて、温室効果ガス排出量の削減を目指す」と公表。

(9/24 ベラパン通信)

経済

【対外経済】

●2019年1月～7月、ベラルーシ・EU間の貿易高、去年同期対比10.3%減少

(9/25 ベラパン通信)

●「ベルギー」、2020年には7カ国へ輸出予定

中国・ベラルーシ共同自動車工場「ベルギー」社は、2020年には自動車輸出を7カ国へ拡大する予定と発表。7カ国には、アゼルバイジャン、アルメニア、カザフスタン、リトアニア、ポーランド、セルビア、ウクライナが含まれる。同社の2020年生産予定台数は30～35千台であり、うち約10千台が国内向け、残り約20～25千台が輸出向けである。

(9/25 ベラパン通信)

●ズベルバンク、ベラルーシの経済成長率を1.5～2.5%と予測。

ズベルバンクのマクロ経済調査センターは、ベラルーシの経済成長率予測を1.5～2.5%と公表。1月の経済成長率は1.3%であったのに対し、1～8月の累計成長率は1.1%と成長が減速傾向にあり、当初ベラルーシ政府が掲げていた4%を達成する見込みは低い、と発表。

(9/24 ベラパン通信)

【国内経済】

●政府債務、1月～8月で4%(18億ルーブル)減少

財務省は、9月1日時点での政府債務が436億ルーブル、対外債務が166億ドルと発表した。1～8月で、

政府債務は4%、対外債務は1.9%減少したことになる。

●個人事業主数が1年で5%増加

ベラルーシ国立統計局は、2019年9月1日時点で、昨年同日比、個人事業主数が5%増加し、25万4700名となったことを発表。法人数は14万2700社で昨年同日対比0.1%増加。

(9/27 ベラパン通信)

●赤字企業率、約10.5%減少

ベラルーシ国立統計局は、2019年1～7月における赤字企業数が、昨年353社から316社へと約10.5%減少したことを発表。

(9/26 ベラパン通信)

●ベラルーシ国内平均月給、微減

ベラルーシ国立統計局は、「ベラルーシ8月の国内平均月給が7月対比10.7ルーブル＝約1%減少の1,117.8ルーブルである」と発表。

地域別の平均月給は以下の通り。

ミンスク市:1,512.8ルーブル

ミンスク州:1,165.1ルーブル

モギリョフ州:934.6ルーブル

ブレスト州:967.3ルーブル

ヴィテプスク州:957.8ルーブル

ゴメリ州:1,004ルーブル

グロドノ州:966.4ルーブル

(9/25 ベラパン通信)

治安・軍事

●ベラルーシ防衛省、アルメニアで開催予定の集団安全保障条約(CSTO)の軍事協力会談に参加。

オレグ・ヴォイノフ・ベラルーシ防衛大臣補佐官(国際軍事協力事項担当)が同軍事協力会談に参加。同会談参加国の訪問団と個別会談を行った。

(9/24 ベラパン通信)

(了)